



特別レポート

昭和30～40年代における阿賀野川流域の暮らしを振り返る



現在、今年度のパネル作品を制作するに当たり、昭和30～40年代における阿賀野川流域の暮らしについて、流域にお住いの方々から、「ロバダン!」(炉端談義)を通じてお話を伺っています。

今後も「ロバダン!」は続きますが、今回は現時点で分かってきた当時の様子をお伝えします!

上流域で生まれ育った 70～80代の方々に聞き取り

FM事業ではこれまで、流域住民と語り合つ少人数の寄り合い「ロバダン!」(=「炉端談義」の略)を、流域各地で数多く開催してきました。しかし、流域の歴史・文化や産業、現在の地域や団体の取組などに関する聞き取りが大半で、昭和30～40年代の暮らしに焦点を絞つて、具体的に詳しく聞き取る「ロバダン!」は、これまでほとんど開催しませんでした。

今年度は、前ページで紹介したパネル展示の作品を制作するに当たり、流域で生まれ育った現在70～80代の方々を対象に、当時の暮らしをテーマに「ロバダン!」を開催し始めました。現在のところ、上流域の阿賀野川沿岸の集落の方々への聞き取りが中心ですが、今後中流域へ

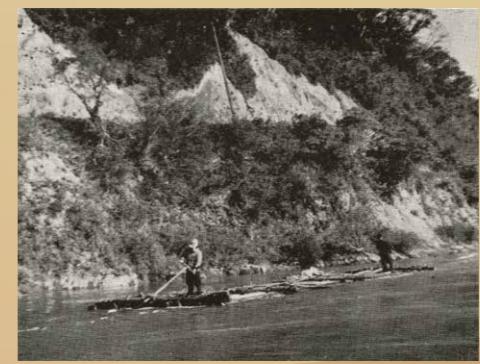
と「ロバダン!」を順次開催していく予定です。

現在は姿を消した生業や当時の様々な職業について

現在70～80代の方々は、昭和30～40年代当時は10～20代の若者でした。この方々の生家の多くは、現在は姿を消した生業に従事しており、特に「炭焼き」に従事する世帯が多いことは、山林が大半を占める上流域の特徴だと思われます。さらに、筏流しや阿賀野川を往来する機械船などの運搬業も自立ち、土木作業に従事していた方々も多かつたようです。

また、小・中学校などが阿賀野川の対岸の集落にあって、渡し船で通学するのが当たり前で、時には泳いで渡つた猛者もいたのだとか……

卒業後の進路としては、実家の生業を継がずに、都会に出て就職した若者も少なくありませんでした。また、特に三川地域では、当時メリヤスの生産が急成長していた五泉の二ツト産業に就職する若者も多かつたようです。もちろん、当時三千名近い從



▲阿賀野川を流送する筏流し



- | | |
|---------------|----------------|
| 1 資料整備ロバダン1 | 11 流域昔語りロバダン2 |
| 2 SDGsロバダン1 | 12 流域環境ロバダン |
| 3 流域環境学習ロバダン1 | 13 公害学習ロバダン1 |
| 4 新潟水俣病ロバダン1 | 14 新潟水俣病ロバダン3 |
| 5 流域昔語りロバダン1 | 15 公害学習ロバダン2 |
| 6 新潟水俣病ロバダン2 | 16 流域環境学習ロバダン2 |
| 7 大河の恵みロバダン | 17 流域昔語りロバダン3 |
| 8 流域資源活用ロバダン1 | 18 SDGsロバダン2 |
| 9 流域資源活用ロバダン2 | 19 流域資源活用ロバダン3 |
| 10 資料整備ロバダン2 | |

基本的には、白米や麦飯、豆や大根菜などを混ぜたがて飯、サツマイモや簡単な雑炊だけで食事を済ませることも多かつたようです。しかし、どの家にも自家製の納豆があり、鶏を飼っている家も多かつたので、卵でご飯を食べたりもしていました。



▲味噌玉、春に集落総出で作る

お話を聞いていくと、阿賀野川の川魚だけではない多種多様な当時の食生活が浮かび上がってきました。阿賀野川上流域は山林が大半で平地が少ないので、ほぼすべての家には畑があり、サツマイモ・ジャガイモ・里芋・大根・カブ・大豆類など、貯蔵が効く根菜類を中心栽培し、通年で自家消費していました。田んぼを開墾した家では、お米も収穫しています。また、春の山菜や秋のキンコも、樽の中に塩蔵するなどして保存食としていました。

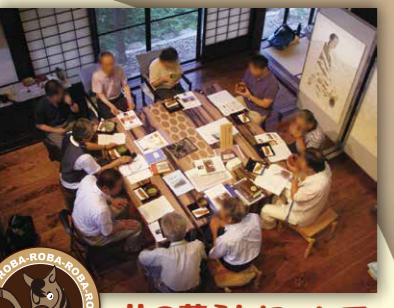
業員を抱えていた、昭和電工(株)鹿瀬工場に通う若者も大勢いました。工場に通う若者も大勢いました。

上流域における当時の食生活



▲落ちアユなど川魚の焼き干し

また、阿賀野川の川魚について、アユやモクズガニなどは人気で、サケやサクラマスも大変美味だったようです。一方、今回お話を伺った中ではウグイやニゴイ、フナなどは、「骨が多くて固い」「口に合わない」という理由から、頻繁に食べていたという方はいらっしゃいませんでしたが、好んで食べている家もあったのではないかとのことでした。



昔の暮らしについて
ぜひお聞かせください!

お問合せ TEL 0250-68-5424



環境と人間のふれあい館主催イベント

写真3枚:山口冬人氏撮影



2024

11
15
Fri.

～
11
30
Sat.

観覧時間

9:30-16:30 休館日:毎週月曜日

観覧
無料

山口冬人俳句 & 写真展 HAIKU & PHOTOGRAPH

あがりくわの息吹

11
16
Sat.

関連イベント 山口冬人さんギャラリートーク
時間 10:00-11:30 参加 無料／定員40名(先着順)
会場 環境と人間のふれあい館 1階 研修室



参加方法 下記の問合せ先または右の二次元コードにより、11月14日(木)までにお申し込みください。(※いただいた個人情報は、本イベントの実施を目的とした用途以外に使用することはありません。)



俳人写真家
山口冬人 (やまぐち ふゆと) さん
旧津川町(現・阿賀町津川)生まれ。
(公社)日本写真家协会会员／新潟県美術家連盟常務理事／(一社)现代俳句协会評議員／新潟県俳句作家协会幹事／新潟県现代俳句协会幹事／俳誌「暖響」同人



会場

お問い合わせ

新潟県立環境と人間のふれあい館 -新潟水俣病資料館-

住所 新潟市北区前新田字新々田乙 364-7
TEL 025-387-1450 / FAX 025-387-1451
メール fureai@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ URL <http://www.fureaikan.net/>



「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第39号はいかがでしたでしょうか？

昨年度は、阿賀野川流域のSDGsをテーマに掲げて、現地の様々なスポットを巡ることで、阿賀野川上流域の水の豊かさ・大切さを実感しました。今年度は、阿賀野川中流域の風土が生かされた歴史や産業を巡り、中流域の大地や大河がもたらす豊かさを実感するイベントを開催しますので、ぜひお気軽にご参加ください！



今号表紙の写真「五泉の里芋畑」

阿賀野川中流域の左岸・五泉市の巣本地地区では、大河が運んできた肥沃な土壌の大地で、ブランド野菜の里芋「帛(きぬ)乙女」が栽培されています。写真は、巣本地地区の一本杉地内に広がる里芋畑を撮影した一枚。

阿賀野川え～とこだより 第39号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2024年9月30日

企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424

aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え～とこだ!流域通信

<https://aganogawa.info/>

// え～とこだよりのバックナンバーも見れます! //

